

地学基礎

最後まで練習を積み、満点にこだわろう

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は23.5点であった。既に「地学基礎」の学習は一通り終えていると思われるが、十分に演習を積み、知識を定着し、総合化できている受験者はまだ少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。

II. 大問別分析

第1問 活動する地球

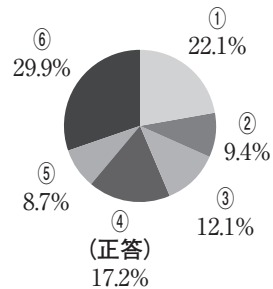
図を描いて考えよう。

Aではプレート境界と地震・火山の関係についての基礎的理解を確認した。問題図1のそれぞれの地域の地震がどのタイプのプレート境界にあたるのかを確認しておこう。

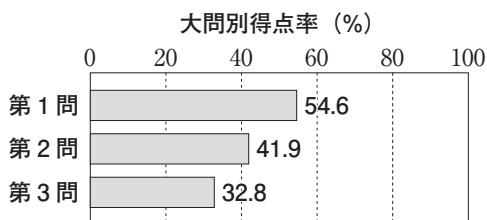
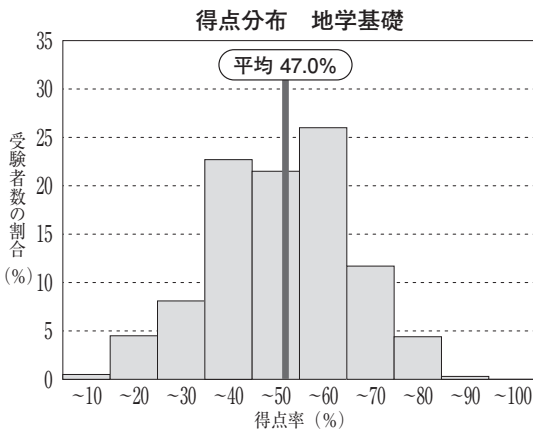
Bでは地球の大きさを求めたエラトステネスの方法と地球の形についての基礎的理解を確認した。解説の図を自分で描けるように練習しておこう。

Cでは地層の対比と地層・地質構造についての総合的理解を確認した。各地質時代の代表的な示準化石や、堆積構造による上下判定について整理しておこう。

問8 8 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、
選択率の合計は100%にならないことがある。
以下同様。



第2問 日本の気象

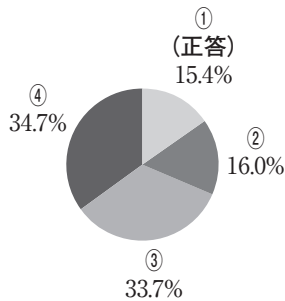
天気図の読み取りに慣れよう。

日本の気象についての総合的知識と理解を確認した。日本の気象は日常的な話題である。日頃からテレビの気象情報やその解説に関心を持って耳を傾けてみよう。また、等圧線と風向の関係を正しく理解しておこう。

なお、問1では、正解以外の選択肢にある用語についても、それぞれどのようなものかを確認して

おこう。

問3 11 各選択肢の選択率



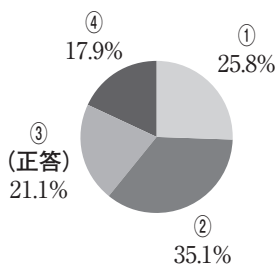
第3問 宇宙

太陽系の進化に関する知識を整理しよう。

Aでは太陽の進化に関する基礎的知識を確認した。太陽の誕生から最期までの流れを、その仕組みや用語とともに整理しておこう。

Bでは惑星の形成過程についての総合的理解を確認した。太陽系の誕生の仕組みを整理し、各惑星の特徴もまとめておこう。

問1 13 各選択肢の選択率



Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。

◆これからの学習について。

センター試験本番において「地学基礎」は是非とも満点を狙ってもらいたい。そのために欠かせないことは、苦手分野や学習漏れをなくすことである。「地学基礎」は教科書の内容を逸脱することなく、基礎的で解きやすい問題の出題が予想される。満点を得るには、教科書の隅から隅まで完全理解を目指し、どの分野にも苦手項目が残らないようにしておきたい。

なお、入試本番では、必ず見直す時間を確保したい。例えば、センター試験では試験時間60分（基礎が付された科目2科目分の試験時間）のうち、10分程度を見直しにあてられれば理想的である。そのためには普段から制限時間よりも短い時間を設定し、負荷をかけた演習を行うことが有効である。

また、入試本番では、塗り残し、マークのずれはないか、など確実にマークできているかの確認を必ず行おう。

◆模試を活用しよう。

これから先の期間は、新しい問題集などに手をつけるのは避けよう。今まで取り組んできた問題の復習に注力してほしい。見たことはあるが、解けなかったという悔しい思いをしないように、今まで自分が学習してきた内容を最後の最後まで徹底的に復習しよう。特に、これまでの模試の解説を見直すことは直前対策として有効である。センター試験では過去問と類似した内容が出題されている。傾向を把握し、時間配分の訓練をするためにも、過去問は徹底的に演習を積むとともに、解説をしっかりと読み込むようにしよう。

また、今まで受けてきた模試の結果から、自分の得手不得手が改めてみえてくるはずである。それらの結果をもとに再度弱点を補強しておこう。